

第3次伊勢原市子ども読書活動推進指針

(令和5年～令和9年)

本との「出会い」で
豊かな心を育てよう！

伊勢原市・伊勢原市教育委員会

トーフくん



ききょうちゃん



こまたろう



【市立図書館のイメージキャラクター】

- ・トーフくん…伊勢原の名産「大山の豆腐」
- ・ききょうちゃん…伊勢原市の花「桔梗」
- ・こまたろう…伊勢原の民芸品「大山こま」

※3人とも子どもと本が大好き！
伊勢原市の読書普及活動で活躍します！
図書館のホームページでも会えるよ！



伊勢原市公式
イメージキャラクター
クルリン

も く じ

1	基本方針	1p
	(1)改訂の目的	
	(2)これまでの経過	
	(3)第3次指針の期間	
	(4)第3次指針の対象	
	(5)第3次指針の位置づけ	
	(6)持続可能な開発目標（SDGs）に向けた取組の推進	
2	子ども読書活動の意義	3p
	(1)健やかな心の発育	
	(2)コミュニケーション能力の向上	
	(3)自立する力の育成	
3	第2次子ども読書活動推進指針の評価と課題	6p
	(1)目標の達成状況	
	(2)取組の概要	
	(3)施策・事業推進の5つの柱の評価と課題	
	(4)第3次伊勢原市子ども読書活動推進指針の改訂に向けて	
4	子ども読書活動推進の体系図	9p
5	子ども読書活動の推進	10p
	(1)施策・事業推進の5つの柱の取組の方向性と取組事業	
	(2)重点取組と目標値の設定	
	(3)主な事業とネットワーク体制	

1 基本方針

(1) 改訂の目的

読書活動は、子どもの知的好奇心を呼び覚まし、想像力や思考力を培い、豊かな言葉やコミュニケーション力を養うなど、未来を担う子どもの元気で豊かな心を育むために大変重要な役割を果たしています。

平成13年12月に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、18歳までの子どもへの読書活動の普及を目指して、市町村に対して、国と県の計画を参考にしながら「子ども読書活動推進計画」の策定に努めるよう定められています。

情報通信技術の発達により、知識・情報へのアクセスは、格段に容易になりました。その反面、いわゆる「活字離れ」は加速しています。スマートフォンの普及は、世界中の人々との情報交換や知識の共有を飛躍的スピードで進めた一方、人と人との直接的な対話やふれあいの機会が希薄になり、スマホ依存やネットいじめなどが新たに社会問題化しています。

令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会のデジタル化にさらに拍車をかけ、GIGAスクール構想等、教育分野におけるICTの導入が一気に進みました。

こうした社会状況の変化を踏まえ、本市における子どもの読書活動をさらに推進していくために、第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針を改訂し、「第3次伊勢原市子ども読書活動推進指針」（以下、第3次指針）を策定します。

(2) これまでの経過

「伊勢原子ども読書プラン～たくさん読めば たくさん感動～伊勢原市子ども読書活動推進計画」（平成19年1月～22年3月）

「伊勢原市子ども読書活動推進指針」（平成25年4月～30年3月）

「第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針」（平成30年4月～34年(令和4年)3月）

(3) 第3次指針の期間

令和5年4月から令和9年度末までの5年間とします。

(4) 第3次指針の対象

おおむね18歳以下の子どもとします。

(5) 第3次指針の位置づけ

国は子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境整備の推進について、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を施行しました。

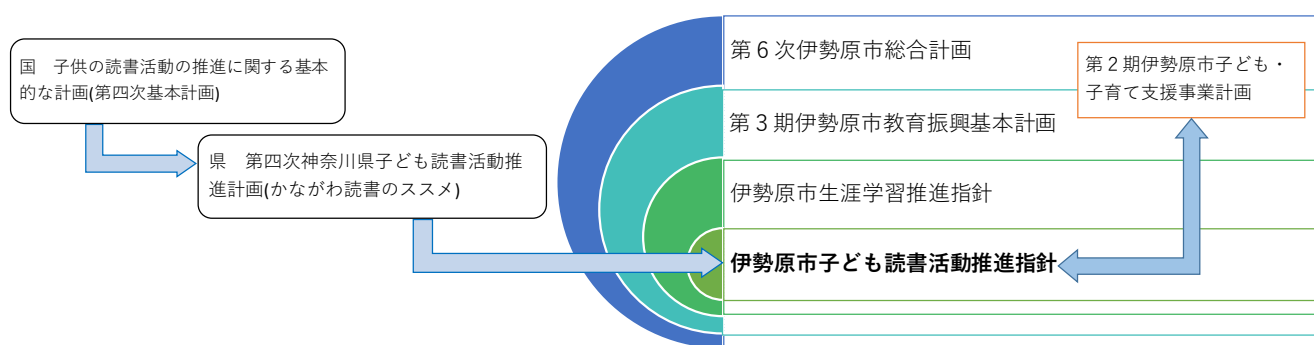
「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、国は、推進に関する施策を総合的に策定、実施すること、地方においては国との連携を図りつつ、地域の実情を踏まえて、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定、実施することとされています。

第3次指針は、本市における子どもの読書活動の推進をはかるため、国、県の計画との整合に配慮するとともに、本市の他の関連する指針・計画との整合性を確保して改訂するものとし、第3次指針と関連する指針・計画については、次のとおりです。

第3次伊勢原市子ども読書活動推進指針と関連する指針・計画

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		2020	2021	2022	2023	2024
国	子供の読書活動の推進に関する基本的な計画(5年)	第四次				
県	神奈川県子ども読書活動推進計画(5年)	第四次				
伊勢原市	伊勢原市総合計画(10年)	第5次			第6次→	
	子ども・子育て支援事業計画(5年)	第2期				
	教育振興基本計画(5年)	第2期			第3期→	
	生涯学習推進指針(10年)	第1次			改訂→	
	子ども読書活動推進指針	第2次			第3次→	

位置づけのイメージ図



（6）持続可能な開発目標（SDGs）に向けた取組の推進

平成27（2015）年9月の国連サミットにおいて、令和12（2030）年までの国際目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられました。

この考え方に沿い、生涯学習の推進にあたっては、すべての人々に、だれもが受けられる公平で、質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進することが求められています。この17の目標及び本指針に関連の深い目標は次のとおりです。



出典：国際連合広報センターWEBサイト

2 子ども読書活動の意義

子どもの成長に読書がもたらす力は、かけがえのないものであり、未来を担う子どもたちにとって、読書は単なる娯楽や趣味の範囲を超え、人格形成に対しても影響力があります。読書は、子どもの知的好奇心を呼び覚まし、元気で豊かな心を育てる人生への贈りものです。

（１）健やかな心の発育

乳幼児期の子どもの発育には、親子の直接のふれあいが非常に重要です。家庭での絵本の読み聞かせは、親子の心と体の有効なスキンシップの一つであり、子どもの頃に本を読んでもらった経験のある子どもは、他者に対する認識や理解、積極性が高まります。また、就学後の国語力や読書にも影響します。

（２）コミュニケーション能力の向上

言葉は、重要なコミュニケーションの手段です。人と人々が理解し合い、人が社会と繋がり貢献していくためには、より豊かな言語力や表現力を身に付けることが大切です。読書によって、コミュニケーション能力や社会性、共感性等、他者と関わるための能力が育つほか、自分自身の興味関心や意欲の広がり、心理的な安定等にも影響します。

（３）自立する力の育成

本を読むことで、言葉を理解し使用する力や情報を処理し活用する力が身に付きます。未来を担う子どもの一人一人が自立するため、新たな創造性や理解力、応用力、編集力を生み出し、困難や問題を解決する判断力や洞察力を培います。

伊勢原市では、子どもたちが良い本と出会うことで、読書のもたらす効果はさらに大きくなると考え、子ども読書活動推進指針の基本理念としています。

伊勢原市子ども読書活動推進指針基本理念

本との「出会い」で豊かな心を育てよう

また、成長段階に応じた本と出会うことが大切であると考え、各成長段階における読書活動のねらいを定めています。

子供の成長段階に応じた本との出会い

0～1歳 乳児 本との出会い・本とのふれあい

赤ちゃんは本を読みません。読まずに「感じ」ます。

パパやママが読む絵本。赤ちゃんは物語よりも「声」を聞いています。

赤ちゃんの大好きな声で、読み聞かせやわらべうたをいっぱい一緒に楽しんであげてください。赤ちゃんは、ちゃんと見ていますし聞いています。

1～6歳 幼児 本の世界ってたのしいな

早くから「文字」を読めたり書けたりする子がいても、幼児が本の世界を楽しむ時は「読んでもらう」のが一番です。

子どもは「ごっこあそび」が大好き。本の世界でも、自分に一番近い登場人物に感情移入し、そして一緒に物語の中を旅し冒険する。物語に集中したいのです。

同じ本ばかり読む子がいたら、その本と一緒に大事にしてあげてください。

繰り返すことで安心し、満足し、自分の世界を作る喜びを覚えるのです。

6～12歳 小学生 本はともだち、いつでもいっしょ

小学生になると「言葉」の吸収力がどんどん増してきます。本を「聞く」楽しみを知っている子には、もっともっと読み聞かせをしてあげてください。きちんと話を聞けることはとても大切なことです。人は「聞く」ことで多くを学びます。

自分で本を読みたい子には時間をあげてください。自分のペースで、自分の好きな世界と関わる手段を身に付けるために。

12～15歳 中学生 本で広がるわたしたちの世界

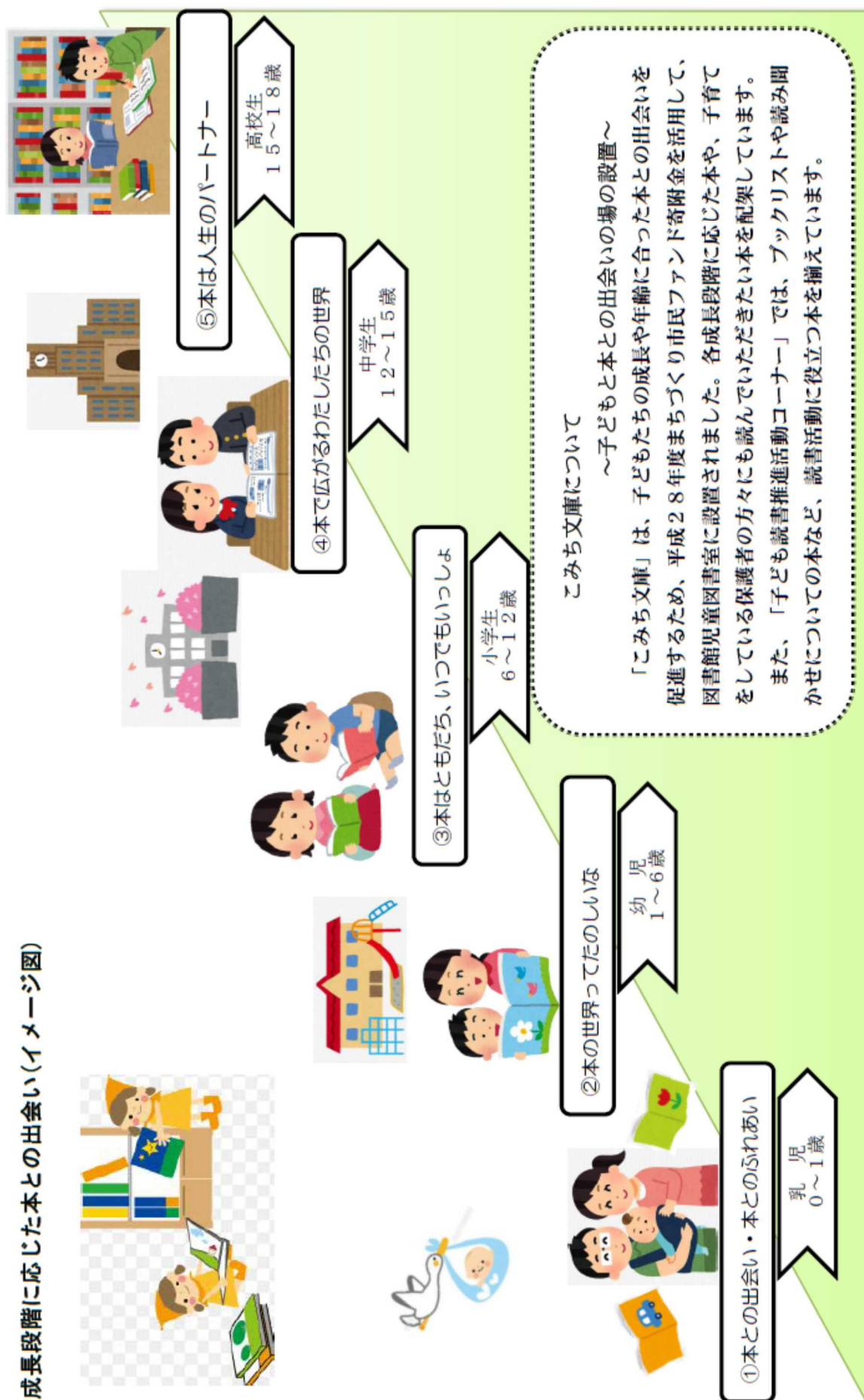
中学生になると子どもはますます忙しくなります。読書の暇などないという話もよく聞きます。でも同時に、「読み解く力」を養うとても大切な時期でもあるのです。中学生は、人に勧められた本をいろいろ読んでみてください。今まで知らなかったいろいろなことを知るチャンスです。そして、自分が知っている以外にも、様々な立場、考え、感情、生き方があることを知ったとき、世界はもっと広がります。

15～18歳 高校生 本は人生のパートナー

高校生になると自分の好みもはっきりしてきて、先を考えるようにもなります。

子どもの時から本によって培った「聞く」「読む」力で、自分の考えを人に「話し」意見を出し合う楽しさを知る。読書は時に娯楽であり、知識・情報の収集であり、他者との対話であり、疑似体験でもあります。他者を理解する心や多角的な視点で物事を捉える目を養うことは、自己を形成していく中でとても貴重な財産になります。

成長段階に応じた本との出会い(イメージ図)



3 第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針の評価と課題

(1) 目標の達成状況

実施内容	対 象	当初値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	現状値 (令和3年度)
学校図書館の図書標準 達成率	市内小学校 市内中学校	91% 81%	100% 90%	100% 91%

●達成状況：目標値を達成できる見込みである。

●今後の方針等：今後も計画的に図書を購入、廃棄し、整理・管理していく。

実施内容	対 象	当初値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	現状値 (令和3年度)
市立図書館読書普及活動 ボランティアの新規育成 人数	市民・ボラン ティア等	—	25人	28人

●達成状況：目標値を達成できる見込みである。

●今後の方針等：今後も継続して事業を実施し、読書普及活動を継続していく。

実施内容	対 象	当初値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	現状値 (令和3年度)
児童図書利用冊数 (18歳以下の利用者が 借りた本の冊数)	市立図書館 児童利用者	1人5冊 ／月	1人7冊 ／月	1人6.6冊 ／月

●達成状況：目標値を達成できる見込みである。

●今後の方針等：今後も、児童向け資料の充実及び、利用促進につとめていく。

(2) 取組の概要

「本との『出会い』で豊かな心を育てよう」を基本理念とし、「啓発事業の充実」「人材育成の支援」「読書環境の整備」「情報・交流の促進」「郷土愛の醸成」を施策・事業の推進のための5つの柱として掲げて、子どもへの読書普及に取り組みました。

乳児期の子どもへの読み聞かせとして有効な7ヶ月児と保護者にブックスタートを実施し、乳児と本との出会いを推進しました。学校では読書の習慣化につながる朝読書や読み聞かせに市民ボランティアを活用し、地域と学校の連携が強化されています。

図書館では、読書記録用にどれだけよんだか手帖の配付や、読書マラソンを開催する等、読書を始めるきっかけ作りや読書意欲の向上につながる様々な事業に取り組むとともに、市立図書館で読書普及活動を行うボランティアの新規育成のための取り組みを実施し、ボランティアとの協働による読書普及活動をすすめました。

令和2年からの新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、おはなし会や育成講座等の集会型啓発事業は、実施が見送られた時期もありましたが、感染予防対策をすすめた結果、再開することができました。

（３）施策・事業推進の５つの柱の評価と課題

啓発事業の充実

子どもの活字離れが危惧される中、７ヶ月児と保護者を対象としたブックスタートや学校での朝読書を通しての読書の習慣化を図り、図書館では、絵本の読み聞かせおはなし会等、子どもたちの「本との出会い」を促進するために様々な活動を行ってきました。

啓発事業は継続して行うことが重要ですが、令和２年からは新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、感染拡大防止のため、おはなし会等の集会型事業の実施が困難になりました。非来館型・非接触型等の啓発事業の実施とそのための環境整備や人材の確保・育成・支援が新たな課題となっています。

人材育成の支援

図書館では、さまざまな読書啓発事業で、市民ボランティアとの協働をすすめてきました。ボランティアの育成・支援講座や、保護者向けに読書講座等の様々な講座を開催することで、ボランティアを新規育成し、読書普及活動を継続的に実施することができました。コロナ禍においては、読書講座を開催することができませんでしたが、館内にボランティアルームを開設し、自主的な活動の支援に努めました。

今後も、子ども読書活動を更に推進するためには、ボランティアの存在は不可欠であり、継続してボランティアの育成・支援を行う必要性を強く感じています。

読書環境の整備

図書館では、指針に掲げる「子どもの成長段階に応じた本と出会える」ことをコンセプトとして『こみち文庫』の一隅に、読み聞かせや読書活動に役立つ一般図書を集めた、「子ども読書活動推進コーナー」を新たに設置する等、児童図書室の整備に努めました。

学校図書館では、子どもたちの読書意欲を高めることを意識した図書の選定・購入を計画的に実施し、各校に図書整備員を派遣して学校図書館の環境整備を図りました。子育て支援センターでは、図書館からのリサイクル児童図書を配置する等、子どもたちに身近な場所での読書普及を行っています。

子どもが本と出会うための環境整備は、今後も継続して行う必要があります。また、コロナ禍でも読書できるシステムづくりや学校への読書支援が課題です。

情報・交流の促進

子育ての中での支援、学校教育や社会教育での支援等、各機関による子ども読書活動の支援事業は、様々な場所や地域でそれぞれの計画の中で実施される一方、コロナ禍により、計画の変更を余儀なくされたこともありました。

図書館では、図書館でのボランティア活動実績をまとめた報告書を毎年度作成し、活動するボランティアに展開することで、情報の共有をはかりました。

ボランティア同士の連携を強化し、意欲向上やスキルアップをはかる機会とするため、読書啓発ボランティアが直接交流できる機会を設けることが、今後の課題です。

郷土愛の醸成

図書館では、イメージキャラクターとして「トーフくん」「ききょうちゃん」「こまたろう」を、どれだけよんだか手帖の表紙に採用し、図書館ホームページや小学校の図書館利用で紹介する等、さまざまに活用しています。どれだけよんだか手帖の表紙のデザインを追加し、大山を題材とした浮世絵とクルリンを採用することで、郷土に親しむことのできる機会としました。また、伊勢原出身の児童文学作家、福明子さんの作品の録音図書作成や、作品に関する展示の実施、ボランティアと協働しての伊勢原の伝説を題材とした紙芝居の原画展等を開催しました。

子どもたちに「ふるさと伊勢原」を知ってもらうための環境や人材の育成に加え、資料の収集や活用をさらに充実させていく必要があると感じています。

（４）第３次伊勢原市子ども読書活動推進指針の改訂に向けて

令和元年度及び令和３年度全国学力・学習状況調査の伊勢原市結果の分析によれば、「読書時間」については、令和元（２０１９）年度と令和３（２０２１）年度の結果を比較すると、小中学校ともに減少しています。

また、インターネットの利用は日常化し、電子書籍による読書経験者も少しずつ増加しており、新しい読書環境への取り組みは新たな課題となっています。

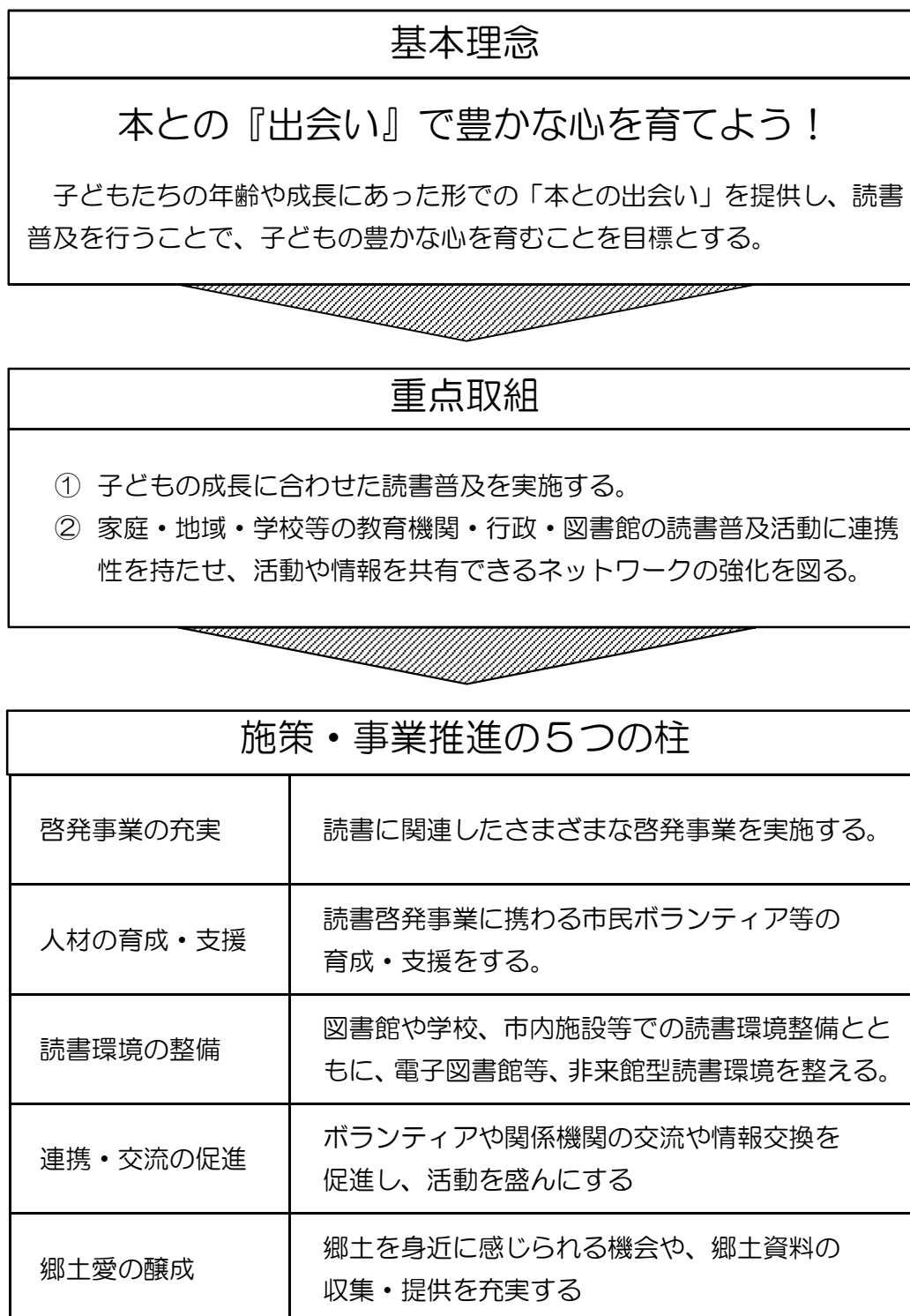
「電子図書館及び電子書籍を活用した子ども読書活動推進に関する実態調査」（令和２年度文部科学省委託調査 子供の読書活動の推進等に関する調査研究）によれば、公立図書館において、電子書籍を活用した子供の読書活動推進は、新型コロナウイルスの影響により、拡大する傾向となっています。

伊勢原市における子ども読書推進活動も、学校等関連各機関との連携を含め、継続的な取り組みが必要です。新型コロナウイルスの世界的流行や情報化社会の加速度的進展等、社会状況の変化に伴う新たな課題を踏まえ、「啓発事業の充実」「人材育成の支援」「読書環境の整備」「連携・交流の推進」「郷土愛の醸成」の５つの柱の事業継続と課題対応に取り組んでいきます。



どれだけよんだか手帖

4 子ども読書活動推進の体系図



5 子ども読書活動の推進

(1) 施策・事業推進の5つの柱の取組の方向性と取組事業

読書普及のため取り組む事業を、子供の成長段階との関係性において5つの柱に分けて実施します。事業実施の方向性としては、コロナ禍を契機として急速に普及が進むICTを活用し、5つの柱のそれぞれの課題解決を目指します。

5つの柱の各事業と対象年齢を下表で示しています。

	乳児	幼児	小学生	中学生	高校生
啓発事業の充実	ブックスタート		夏休み集会事業		
	おはなし会				
			朝の読書活動		
	親子向け集会事業				
		移動教室等の図書館利用			
			すいせん図書館の選定		
	家庭・地域・学校等での読み聞かせ活動				
	おすすめ本のセット貸出				
	読書マラソン大会の開催				
	児童図書館特集コーナーの運用			YAコーナー特集架の運用	
	子ども読書フェスタの開催				
	おすすめ本のリーフレット作成・配布				
	図書館ホームページの子ども向け・YA向けページの運用				
どれだけよんだか手帖の配付					
人材育成の支援	おはなしボランティア育成				
		図書館サポーター育成			
	図書館ボランティア等の育成・支援・協働				
	おはなし会用大型絵本・大型紙芝居等の団体貸出				
	読書活動推進コーナーの設置				
読書環境の整備	児童図書館の整備			YAコーナーの整備	
	電子図書館の充実				
	こみち文庫の整備				
	リサイクル資料の提供(学校・子育て支援センター等)				
		学校図書館の充実			
連携・促進・交流	図書館ボランティア活動報告				
		学校利用の受入		職場体験学習の受入	
		電子図書館の学校連携サービス			
		学校図書館連絡会の開催			高校図書館との連携
の郷土愛	図書館キャラクターやクルリンの活用				
	郷土資料の収集・活用				

(2) 重点取組と目標値の設定

第3次子ども読書推進指針において重点的に取り組む事業に目標値を設定することで、推進の目安とします。

重点取組①啓発事業の充実

新型コロナ感染症拡大防止に配慮し、従来の集会型事業に頼らない、様々な読書啓発事業を展開することで児童書の貸出を促進します。



実施内容	目標値の定義	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
市立図書館における児童書の貸出冊数	市立図書館児童書の個人・団体貸出冊数	228,822冊	230,000冊

【関連する市・教育委員会のその他の計画等における指標】

○ 図書館資料の利用点数

（第6次総合計画前期基本計画成果指標・伊勢原市第3期教育振興基本計画指標）

重点取組②人材育成の支援

読書啓発活動における市民ボランティアとの協働をさらにすすめます。



実施内容	目標値の定義	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
市立図書館での読書普及活動に携わる市民ボランティア数	図書館活動団体・ボランティア登録人数	71人	82人

重点取組③読書環境の整備

いせはら電子図書館コンテンツを充実させ、様々な環境下での読書活動を支援します **(新規)**。



実施内容	目標値の定義	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
いせはら電子図書館コンテンツの充実	販売型ライセンス数	486点	1,500点

重点取組④情報・交流の促進

電子図書館の学校連携サービスにより、タブレットを利用した読書活動をすすめます **(新規)**。



実施内容	目標値の定義	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
朝の読書活動等における、いせはら電子図書館の利用	学校連携サービスログイン数	未実施	2回/人

重点取組⑤郷土愛の醸成

郷土資料に触れる機会を増やすため、郷土資料のデジタル化をすすめます**(新規)**。



実施内容	目標値の定義	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
所蔵する郷土資料のデジタル化	いせはら電子図書館の郷土資料コンテンツ数	6点	10点

いせはら電子図書館の学校連携サービスについて

GIGAスクール構想の一環として、市立小中学生に配付されたタブレット等を活用して電子図書を貸出利用することで、読書に親しむきっかけづくりとし、子ども読書活動の推進をはかる取組として、令和4年5月に開始されました。

図書館は、伊勢原市内の学校教職員・在学児童生徒に対し、学校長からの申請により学校で指導しやすい、学校連携用電子図書館IDを交付します。

学校では、タブレット等で電子図書閲覧の指導を行い、デジタル資料の利用についての学びの場とします。

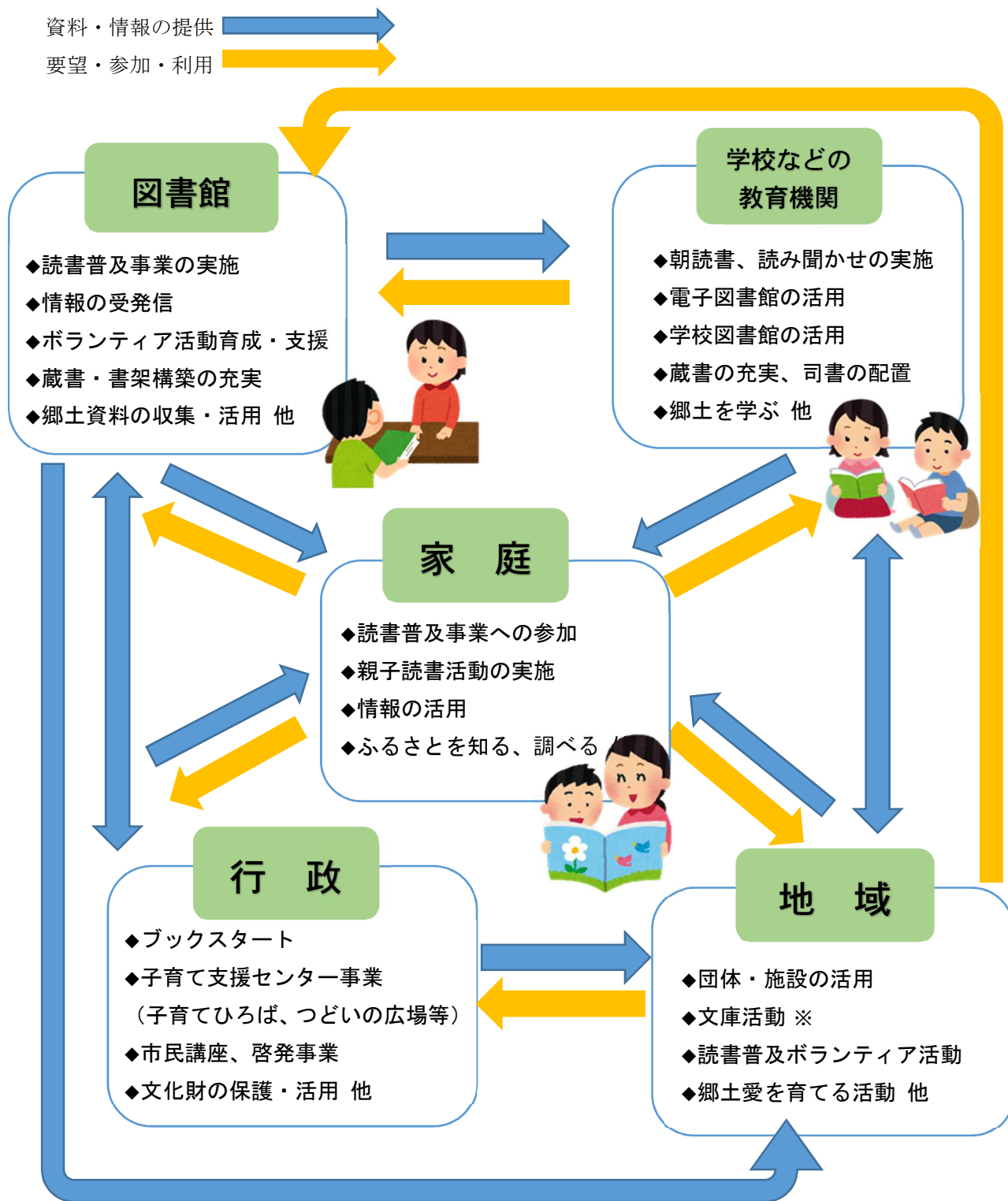
複数の児童生徒が同時にコンテンツが利用できるよう、図書館では、児童向け読み放題パッケージの導入等、コンテンツの充実をはかっていきます。

(学校連携IDサービス内容)

	教職員 ID	児童生徒 ID
交付条件	学校長からの申請	学校長からの申請
貸出コンテンツ数	3点	1点
貸出期間	2週間	2週間
有効期限	申請年度末	中学校卒業まで

(3) 主な事業とネットワーク体制

家庭・地域・学校等の教育機関・行政・図書館でつくるネットワークにより、読書普及のための事業は強化され、子ども読書活動を推進していきます。



※地域施設等でまとめて本を借り、貸出サービスを展開する活動

第3次伊勢原市子ども読書活動推進指針

令和5年4月改訂

＜編集・発行＞ 伊勢原市・伊勢原市教育委員会
図書館・子ども科学館

〒259-1142 神奈川県伊勢原市田中76番地

電話 (0463) 92-3500

伊勢原市HP：<https://www.city.isehara.kanagawa.jp/>

伊勢原市立図書館HP：<https://www.lib-isehara.jp/>